

# 地方でビジネスは成立するのか

地域おこし協力隊 松崎宏泰





# 松崎 宏泰

地域おこし協力隊 3年目 (43歳)

 前職：旭市でキャンプ場の製作と運営

## 現在の活動の背景

-  地域課題を事業で解決する実践に取り組み中
-  地域との連携を重視し、持続可能な仕組みづくりを推進

### 「地方にはまだ可能性がある」

そう思い、多古町に来ました。

 空き家 空き地 耕作放棄地 人口減少

# 「問題ではなく 可能性」

同じ現実でも、捉え方次第で**資源**に変わる。

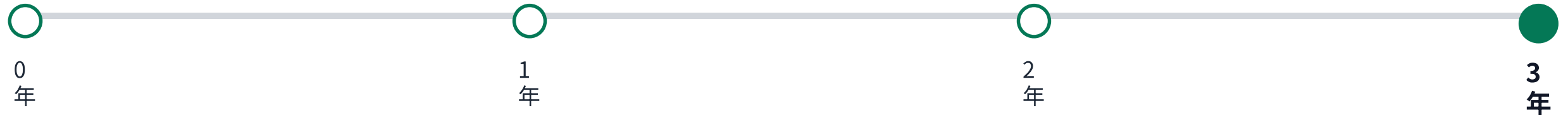
# 「場所探し」が最大の課題

地方でビジネスをする時、いちばん難しいのは場所探し。

対象：キャンプ場／バーベキュー場

地方ではよくある課題

## 土地探しに約3年



地域の信頼関係づくり、用途変更、法規・調整などに時間を要する。

## 場所が見つからない間も行動を継続

レンタルルーム・シェアカー・キャンプ場・コンテナハウス製作 など、複数の事業を進めていった。



### レンタルルーム

小規模スペースの提供・運用



### シェアカー

移動手段の選択肢を提供



### キャンプ場

アウトドア体験の場を整備



### コンテナハウス製作

小規模建築の企画・製作

行動を止めず、次の展開への基盤を形成

昨年度の売上

**6,300万円**

利益

**約800万円**

営業利益率

**約 12%**

地域おこし協力隊として、地方でビジネスを成立させた一つの事例

# 現在建設中のプロジェクト

農家さんから農地を借り、新しい観光の場所づくりを進めています。



## バーベキュー場

地域食材を楽しめる屋外レジャー拠点を整備。

建設中



## 観光農園

収穫体験や学びを提供する滞在型アクティビティ。

建設中



## コンテナ展示場

多用途コンテナの活用例を公開し、商談に活用。

準備中

点の取り組みを結び、地域に人が集まる観光拠点として面に拡大していきます。

# 地域おこし協力隊 サポート事業

現場ニーズに基づく実践的支援を整備

- 💡 背景：3年間の活動からの気づき  
「こういうサポートがあればもっと成果が出る」
- 🎯 狙い：再現性のある支援モデルの構築  
個人の工夫に依存せず、成果を最大化
- 🚧 方向性：実践的支援の整備  
伴走・学習・実務の3本柱での支援体制を設計

経験知を**仕組み**に変え、地域での挑戦を加速させる。



 **目標設定**  
目的・KPIの明確化



 **税務**  
会計・申告の基盤整備

 **起業支援**  
事業計画・資金調達

伴走・学習・実務の三位一体

 **補助金**  
申請・運用サポート

仕組みを確立し、他自治体へ**横展開**して成果を再現。

多古町で実装 → 他自治体へ展開

# 地方でもビジネスは成立する

と確信しました。

最後になりますが、ここまで活動してこられたのは自分の力だけではありません。

地域の皆さんや役場の皆さんのご理解と応援があったからこそ今の自分があります。

この町で出会えた皆さんに心から感謝しています。

これからもこの町で人が集まり、挑戦が生まれるような取り組みを続けていきたいと

思います。本日はありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました